妖言　枉言　狂言

いふは、うはの空なる言の意也、

〔伊呂波字類抄志諸寺〕十善○中略

不妄語　不惡口　不兩舌　不綺語（中略）十惡飜也

〔拾芥抄下本教誡〕源信僧都四十一箇條起請

應重禁制條々○中略

一可念思禁妄語○中略

已上四十一箇條、可如眼精矣、

〔倭訓栞前編四十五於〕およづれごと　續日本紀に見え、万葉集におよづれとのみにて、ことを略せるも見ゆ、日本紀に妖僞、又妖言をも訓せり、

〔八雲御抄三下人事〕言○中略　まが万、狂言也、

〔倭訓栞中編末二十四〕まがこと　万葉集に狂言、又枉言と見えたり、○中略　古事記に訓禍云摩賀とみえたり、

〔日本書紀二十九天武〕四年十一月癸卯、有人登宮東岳、妖言而自刎死之、

〔萬葉集三挽歌〕石田王卒之時、丹生作歌一首　井短歌○中略

玉梓乃人曾言鶴、於余頭禮可、吾聞都流、枉言加、○下略

〔萬葉集十七〕哀傷長逝之弟歌一首　井短歌○中略

多麻豆左能使乃家禮婆、宇禮之美登安我麻知刀敷爾、於餘豆禮能多婆許登等可毛、○下略

〔下學集下態藝〕狂言

〔運歩色葉集多〕狂言　〔同幾〕狂言

〔書言字考節用集九言辭〕狂言綺語法界次第、綺側、語辭言乖道理名爲綺語、